

1 年総合学習 論理コミュニケーション発表会

3月14日（水）1年生が、総合学習の取組の成果の発表会を行いました。当日はこの企画に連携してご協力頂いた大瀬戸地区活性化委員会や西海市議の皆様、長崎国際大学の学生、西海市行政長を初めとする地域の皆様にもご参加いただきました。前時までの全体発表で選出された代表者14名が、「交通について」、「イベントやインスタ映えの場所について」「商業施設について」などそれぞれのテーマごとに意見を述べました。

<授業内容の紹介>

私たち西彼杵高校1年生は、「総学」の授業の中で、進路学習の一環として地元・大瀬戸地区の現在・未来について考える授業を1学期に実施しました。大瀬戸地区活性化委員会の方々や長崎国際大学「西海よかこ発信部」の皆さんなど西海市と関わりのある多くの方の協力を得て、ワークショップ形式で行いました。6月に行った第1回目のワークショップでは、大瀬戸の「良いところ・好きなどころ」「残念なところ・さみしいところ」「こうしたらいい・こんなものがあつたらいいなど理想のまち」について意見を出し合いました。また、こうなつたらいいという理想のまちについては、①店を増やして欲しい(飲食店など) ②バスの本数が増えれば、西海市に来る人も増える ③まちの良いところを生かしたイベントを増やして欲しい ④海が見える場所で新鮮な大瀬戸の海の幸が味わえる飲食店を作つたら ⑤空き家を改修して民宿にすればなどの意見が出されました。7月に行われた2回目のワークショップでは、高校生の目線で「日常的に足を運びたくなるところって、どんなところ？」というテーマについて意見を出し合いました。さらに、「あつたらいいな」と思う場所については、空き地・空き店舗に若者があそべるような商業施設(遊園地・カラオケ・飲食店など)をつくる、大瀬戸総合運動公園奥の空き地を人工芝のサッカー場にしたい、景色の良い「尻久砂里海浜公園」を盛り上げるために夏祭り開催、池島から打ち上げる花火大会など、若者の自由な発想で、「ワクワクするような楽しいアイデアを」ということをキーワードに考えました。

これらを踏まえて、2学期からは論理コミュニケーションの授業に取り組み、意見を論理的に伝えるために、論理的に書く学習から始めました。

発表者の一人、松本真菜さんの意見を紹介します。

「大瀬戸地区が今よりも元気になるために必要なことは何か。」

1年2組 松本 真菜

私は、大瀬戸地区が元気になるためには、「ご飯屋を増やすこと」が大切だと考える。意見における「元気」とは、「観光客が大瀬戸に来て満足すること」を指す。根拠は大きく分けて3つある。

第1に、食べるところが少ないからだ。例えば、イベントを開催したり、観光スポットがあつたとしても、食べるところがなかったら観光客は来たいとは思わない。また、私は長崎市から大瀬戸に通学しているが、大瀬戸ではご飯屋を見かけない。コンビニはあるけれど、わざわざ遠いところから来た人であれば、その地域ならではの食材を使った料理を食べたいと思うからだ。

第2に、地元の魅力を知ってもらえるからだ。地元の特産品を使えば宣伝にもなるし、おいしいと思ってもらえれば、地元の野菜や魚介類などが売れる。さらには、また来たいと思ってもらえるかもしれないからだ。

第3に、分かりづらいからだ。まず、何がわかりづらいかというと、どこにあるのかわからない。現在大瀬戸には、ご飯屋は15軒ほどある。しかし、どこにあるかわからず、ネットの情報だけが頼りなのは不安を感じる。もう一つは、開いているのかわからない。実際に「食べログ」という口コミサイトで、「営業しているかわからなかったが、開いていた。」という声が上がっている。もっと開いているかどうか分かりやすくする必要があると思う。



質疑応答中。何故かっ
ていうと・・・



今井委員長から、「人材を育成し、伝統
芸能を守りながら、十年、二十年後を
見据えた街づくりを一緒に考えていき
たい」と講評いただきました。



← 2018 3月15日（木）長崎新聞13面掲載記事